

2024年度学校自己評価シート(本庄第一高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	学園理念「賢生」 ・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。 ・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。 教育方針 ・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心をもち、学力・技術の向上に努める。 ・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる。 ・スクールミッションである「多様な夢や希望を実現するために挑戦する強い心を持ち、努力を継続し、また、周囲の人々とお互いに影響を受け、与え合いながら、逞しく、前向きに将来を切り拓くことができる人物を育成する学校」としての社会的責任を果たす。
本年度重点目標	1 各類型コースの特色づくり 2 英語を軸とした学力の向上 魅力ある授業づくり 3 秩序ある学校の雰囲気づくり 4 開かれた学校づくり(学校開放・地域への貢献) 5 生徒募集・広報活動の充実(説明会・体験入学の充実)入学者増

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会を開催、また個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者(聴取者)	
学校関係者(法人 監事・評議員)	名
生徒	名
事務局	名

※番号欄は本年度重点目標の番号と対応させている。

		学校自己評価				学校関係者評価	
		年度目標		年度評価(2025年3月31日現在)		実施日2025年5月末日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		学校関係者からの意見・要望・評価等
					達成率	次年度への課題と改善策	
1・2	○S類型:英語外部検定上位級合格者を増やす。 難関大学の入試に対応できる学力の定着。 縫制りの連携を意識した各学年での取り組みと学力向上。 ○AⅠ類型・文Ⅰ型・理Ⅰ型 英語外部検定資格取得者を増やす。 学習意欲・基礎学力向上と進路の実現。 年内入試だけでなく、一般入試にも対応できる生徒を増やす。 ○AⅡ類型・文Ⅱ型 英語外部検定受験者を増やす。 定期試験の成績だけにこだわるのではなく、知識の蓄積を目標とした学習習慣の確立。 推薦を希望する生徒の基礎学力の担保。	英語外部検定取得・受験状況の可視化。 ○S類型は放課後補習・個別指導・長期休業中補習の更なる充実。 ○「スタディ・サプリ」等を有効活用し、学力向上に効果的な様々な学習法の提供。 ○自主性を育み、主体的学びまで届かせる具体的な指導。 ○文Ⅰ・理Ⅰは平日2回の希望者補習・長期休業中補習の実施。 ○就職希望者向け公務員試験対策講座・講演会の実施。 ○総合型選抜入試・推薦入試対応型講座や小論文模擬試験等の実施。 ○国立大学の総合型選抜入試や公募推薦なども含めた大学入試問題の研究。 ○部活動など、得意分野を活かした進路指導の強化。 ○教員の指導力や知識の向上のための研修会の充実および大学入試問題の研究。 ○キャリアガイダンス等の行事を充実させ、生徒が早期に進路目標設定・研究・準備が始められるよう計画する。	○国立大学の合格者を6名(2022年実績)以上出せたか。 ○GMARCHの合格者を15名以上、日東駒専の合格者を30名以上出せたか。 ○総合型選抜・学校推薦型選抜での合格率が向上したか。 ○進路模範校への受験者数・合格者数とも20名以上出せたか。 ○担任を主とした小論文・面接指導の展開が図れたか。が展開されたか。	○国立大学合格者は現役生79名、既卒生2名となった。 ○GMARCHは現役生15名、既卒生2名となった。日東駒専は現役生25名、既卒生4名の合格であった。 ○総合型選抜・学校推薦型選抜でも極めて順調で、合格率は上昇した。 ○進路模範校が1校まで増えた関係もあり、63名の合格者を出すことが出来た。 ○小論文指導・面接指導ともに担任が中心となって展開することができた。	○「英語力向上」は当校の大きな課題と言える。令和7年度の学力の中心は、やはり英語である。改善策として下記のような手を行った。 ①年1回の英語検定全員受験 ②放課後補習の更なる充実 ③「魔王決定戦」の継続 ※テキストは英検対策に特化した物に変える。 ○「情報人材の育成」も課題の一つとしたい。当校は令和6年度、DXハイスクール事業採択校となった。補助金によってDX室が新設され、本格稼働へ向けて整備が進んでいる。誰もが最新鋭の機器触れることができるようにし、身近に触れる機会を持たせることで、生徒の興味・関心を喚起していきたい。	学校関係者評価 実施日2025年5月末日 学校関係者からの意見・要望・評価等	
3	生徒指導に求められる役割は時代によって変化してきており、生徒の抱える問題やニーズが多様化し、複雑さと困難さは年々増してきている。近年の生徒指導は内部的な部分で問題を抱える生徒や生徒間で起こるSNSによる問題が多い。友人関係の構築も未熟で、他人との関係性を築いていく力が弱い。いじめや不登校などに発展することもある。また、SNSの発展に伴い、学校生活の中で自分と異なる価値観の人との関係を築いていく課題の乏しさが、問題の一因となっている。人間関係づくりにおける課題は、これからの生徒指導は、重要な問題事項になっているため、丁寧な指導が必要である。また、校則を変更して2年目であるため、校則の見直しや教員間で指導に差が出ないよう注意が必要がある。 ○未然防止のための生徒指導 ○社会情勢に合わせた生徒指導 ○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携した生徒指導 ○いじめ問題の防止と発生時の早期解決 ○交通事故減少	生活指導 ○生徒の小さな変化を見逃さないよう、生徒とのコミュニケーションを大切に。教員間の連絡を密にする。 ○朝の校門指導、生徒指導係による朝指導を実施する。 ○警察官による防犯講話を実施する。 ○情報セキュリティ講座を実施する。 ○厳しさと丁寧さを兼ね備えた生徒指導に努める。 ○教員間で温度差のない、生徒指導に努める。 ○いじめ基本方針に基づき全教員で取り組む。 ○訓話や通信文を通じ、交通マナーの意識向上を図る。 ○本校の生徒指導方針について保護者に理解していただく。 ○生徒相談や体罰問題に関する教員の研修の充実。	○頭髪・服装の乱れにより、指導を受ける生徒が減少したか。 ○安全にインターネットやSNSを利用し、マナーやモラルを守ることができたか。 ○問題行動、インターネットおよびSNSトラブルなど未然に防ぐことができたか。 ○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携し、生徒のサポートが図れたか。 ○いじめ基本方針に基づいた防止策が図れたか。早期発見、早期解決が図れたか。 ○自転車の安全運転の意識が向上し、交通事故が減少したか。 ○生徒指導における保護者との連携が図れたか。 ○生徒相談や体罰問題に関して、教員の意識が高まり成果が上がったか。 ○先生間で共通意識を持ち、温度差のない生徒指導ができたか。	生徒指導の件数が前年度より2.2%増加した。指導内容は、制服の違反や女子の化粧が大半で、「制服を正しく着る、校則を守る」を軸に、教員の温度差なく指導を行った結果である。近年、校則に対する生徒の意識が低くなりつつあるため、校則を教員と生徒で確認する時間を設ける。 ○スマホを利用したSNSトラブルが続いている為、学年集会で指導を行い、情報セキュリティ講座では、画像の拡散やSNSトラブルについて生徒に注意喚起を行った。生徒のSNSトラブルに対する意識が高まり、トラブルになる前の相談が増え、対応する事ができた。その結果、大きな事故が起きることはなかった。 ○内部的な部分で問題を抱える生徒に対して、生徒相談(スクールカウンセラー)と連携し、学校全体で情報を共有し、対応することができた。 ○いじめの事実が発生した。いじめと生徒間で互いの距離感がうまく取れないことが原因で、トラブルが生じ、いじめが表面化した。生徒間から、嫌がらせ行為が続いているため、生徒の様子、変化が教員が把握することができた。すべての事実について、いじめ問題対策委員会を開催し、教員全体で早期に対応ができた。重大事案に発着することなく早期解決することができた。 ○昨年より、身だしなみ講座を実施し、その中で制服の着方やTPO、公共の場でのマナーを学ぶ機会を作っていた。また、教員が挨拶を大切に出来る教育環境づくりに努めている。 ○自転車の交通事故は、5件発生した。警署と連携し、ヘルメット着用を推進した。また、年に2回の自転車点検を実施し、自転車の安全点検を行うことで、生徒の自転車安全運転の意識が高まった。 ○警察と連携し、生徒の登校時利用して、自転車安全運転、間バイト、オンラインカジノの違法性についての啓発活動を行った。 ○生徒指導の事実が発生した際には、速やかに保護者と連絡を行い、内容の説明、指導方針の連絡ができた。 ○生徒相談が主催する研修会を2回実施した。アンガーマネジメントを研修を通して体罰問題に関しての教員の意識が高まった。生徒相談の事例研究研修では、生徒相談に対する教員の意識が高まった。 ○生徒指導では、教員間の温度差をなくすため、オンライン上で生徒指導チェックが簡単にできるように、指導の効率化も図った。その為、生徒指導の件数も増加したが、教員全体で生徒指導に取り組む事ができた。	○今年度もSNS上での問題行動や生徒間のトラブルは多く、指導が追いつかない現状がある。研究会などに参加すると、県内のどの高校もSNSトラブルの問題を抱えていた。トラブルの内容も様々で、対応が難しいものも多々ある。個人のプライバシーを守りながら、問題行動およびトラブルに対して適切な生徒指導が行えるよう、研修会や講演会を開催し、定期的・継続的な学習の実施に努める。 ○今年度は、生徒集会や情報セキュリティ講座で具体的な事例を用いて注意喚起を行い、校内での携帯・スマートフォン等の利用規則を作った結果、動画の拡散などの問題が減少した。しかし、教員の目の届かない所でSNSのトラブルが起こる事が多い。生徒の様子の変化に注視し、生徒への注意喚起を継続的に行い、トラブルの未然防止、早期発見に努める。 ○今年度は、いじめの問題が3件発生している。今後も、早期に対応できるように、被害を受けている生徒が相談しやすい環境づくりを行い、いじめをさせないクラス運営ができるように教員全体で意識して取り組んでいく。		
2	○英語力向上を強く意識した指導。 ○学習意欲の低い生徒への対応。 ○「探究の時間」を充実させる。 ○家庭学習が疎かになっている生徒への対応。 ○ICTを活用した教科指導の推進。 ○キャリア教育の目標を意識した取組み。 ○教員自身の指導力向上に向けた、各種研修の参加。	授業改善の取組(生徒の主体的な取組みを促す) ○授業・課題でのタブレット端末活用、主に動画や資料の日常的配信。 ○ICTを駆使した、同時双方向型指導の計画。 ○外部団体主催の各種のスキルアップ講座等へ積極的参加。 ○授業力向上に資する、授業アンケート実施と活用。 ○ICT活用「アクティブラーニングをテーマにした授業の公開」。 ○キャリア教育を意識した教科指導の研究。 ○新指導要領に則った具体化策としての「新教育システム」の実践。	○生徒の授業に対する意識が高まり、自主的な取り組みができるようになったか。 ○生徒の学力が向上し、定期テストや模擬試験等の結果に反映できたか。 ○家庭学習の重要性が理解され、進路実現のための意識が向上したか。 ○公開授業の経験が教科指導に活かされたか。 ○各学年段階の生徒に適切なキャリア教育が実践できたか。 ○多くの教員が授業や個別指導においてICTが活用できたか。 ○スキルアップ講座等で習得した技術が授業で活かされたか。 ○授業アンケートの結果が向上し、満足度が上がったか。 ○新学習指導要領に沿った授業運営と評価ができたか。	○授業アンケートで、生徒の自主性・満足度共に向上している。 ○学力の数値化は、生徒の学力向上に役立っている。 ○家庭学習に関しては、保護者の理解・協力が得られている。 ○授業力向上・キャリア教育は、新学習指導要領に促しつつ、教員研修会への参加・ICT機器活用によってはかれた。	○授業アンケートでは教科によってばらつきはあるものの、ICT活用の評価が低かった。その原因としてプロジェクト室が空室し、授業開始までの設置が大家であったことが考えられる。改善策としてDXハイスクール構想で得られた補助金を活用し、新3年・新2年の教室に65インチ大型モニターセットを配備した。HDM配線さえなれば、教師・生徒は簡単に高画質・高音質の資料の授業が可能になった。新1年生については、令和7年度のDX事業の継続が認められた場合は5月までに配備するものとする。 ○教員研修会もDX・ICTを中心に計画したい。こうしたスキルアップの努力は、自ずと生徒の授業満足度向上につながるが、ひいては保護者の理解と協力が得やすくなることを考える。		
4	○地域保護者および小中学生に対して本校生徒の活動、成果、教育実践に関する情報提供の推進。 ○地域の要請によるイベントへの参加、施設の貸し出し対応。 ○学校自己評価シートの公開による開かれた学校づくりの具体的な取組みの推進。 ○スクールライフアンケートの結果による生徒会との連携。 ○学校見学会の内容の充実。 ○様々な分野における地域との連携。 ○PTA活動の充実。	開かれた学校づくり ○地元社会体育団体への施設開放。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 ○スクールライフアンケートの実施。 ○学校の取り組みに対する保護者への理解を促し、要望等を取り入れていく。 ○紙媒体とデジタルデータを活用し、より多くの人々に情報を公開する。 ○PTA主催のイベントや研修会の開催の実施。	○地域社会との交流の機会が増えたか。 ○学校の認知度は上がったか。 ○学校行事や学校主催のイベントに多くの受験生、保護者が参加したか。 ○学校に対する保護者の関心が高まったか。 ○今年度の学校行事は、ポスター、SNSだけでなく、ほんじつFMを利用し、宣伝力を高めた結果、多くの保護者・中学生が参加を希望する傾向が見られた。昨年の反省から、日程を他校とずらしたことも良かった。 ○PTA主催の保護者対象進路説明会、学校見学会、部活動の見学、文化祭、体育祭の参加など、保護者が来校する機会が増えた。さらに学校見学会は2回開催して欲しいというPTAからの要望もあり、開催日を増やした。学校の様子を見ていただく機会が増え、貴重な意見を聞く機会ができた。また、アンケートの実施により、保護者からの積極的意見が増加し、関心度は高くなった。 ○宣伝媒体として紙及デジタルデータを用意し、HPを通して宣伝することができた。さらに、Instagram、TickTock Lineなども宣伝に活用し、広報活動は活発になった。 ○部活動、学校の特色について生徒と教師が共に広報活動に取り組み、動画の作成、写真掲載など積極的に行うことができた。その結果多くの反響があり、本校に興味関心をもつ機会となった。	○剣道教室、バスケットクラブ、サッカークラブ、野球クラブなどに施設を開放し、地域社会との継続的な交流の機会を持つことができた。 ○学校の生産学習課との連携で小学生を対象に、絵画教室を行った。 ○今年度の学校行事は、ポスター、SNSだけでなく、ほんじつFMを利用し、宣伝力を高めた結果、多くの保護者・中学生が参加を希望する傾向が見られた。昨年の反省から、日程を他校とずらしたことも良かった。 ○PTA主催の保護者対象進路説明会、学校見学会、部活動の見学、文化祭、体育祭の参加など、保護者が来校する機会が増えた。さらに学校見学会は2回開催して欲しいというPTAからの要望もあり、開催日を増やした。学校の様子を見ていただく機会が増え、貴重な意見を聞く機会ができた。また、アンケートの実施により、保護者からの積極的意見が増加し、関心度は高くなった。 ○宣伝媒体として紙及デジタルデータを用意し、HPを通して宣伝することができた。さらに、Instagram、TickTock Lineなども宣伝に活用し、広報活動は活発になった。 ○部活動、学校の特色について生徒と教師が共に広報活動に取り組み、動画の作成、写真掲載など積極的に行うことができた。その結果多くの反響があり、本校に興味関心をもつ機会となった。	○地元社会体育団体への施設開放をさらに進めていく。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加を促していく。 ○スクールライフアンケートを実施する。 ○学校の取り組みに対する保護者への理解を促し、要望等を取り入れていく。 ○PTA活動の内容を検討し、保護者の負担にならない充実した活動を進めていく。 ○紙媒体とデジタルデータを活用し、より多くの人々に情報を公開する。 ○HPのリニューアルを行う。 ○生徒と教員が一丸となって情報を発信できる広報活動の活性化を進めていく。 ○充実した学校行事になるよう時期、内容の検討をしていく。 ○学校生活の質を向上させる目的の一つとして、卒業生および卒業生の保護者に対し、匿名での学校生活アンケートを実施する。 ○生徒・保護者の本音を聞き、より良い学校生活を送れるように努める。		
5	○学校の取り組みや生徒の諸活動を保護者、地域に対して積極的に情報提供。 ○オープンスクール、学校説明会、個別相談会等の参加者増加へ向けた生徒募集行事の進化。 ○受験者・入学者の増加に向けた取り組み。 ○HPの質の向上と受験生・保護者が求める情報の発信。 ○LINEやInstagram等のSNSを有効利用した効果的な情報提供。	生徒募集・広報活動 ○ポスター・パンフレットの作成。 ○年間10回「本庄第一通信」の発行。 ○年間10回の広報誌「みらチカ」の発行。 ○あつこの小学校・中学校訪問や塾への訪問を実施。 ○塾の先生方対象入試説明会の実施。 ○オープンスクール、体験入部会、S類型説明会等の実施。 ○学校内外での本校独自の説明会の実施や平日の学校見学会希望者への案内を行い、実際の学校の様子や取り組みなどを紹介する。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 ○HPの質の向上を図るとともに適宜更新し、情報を発信する。 ○部活動などはじめとした生徒の様子を様々なアプリなどを利用し、幅広く情報を発信する。 ○BLENDを利用しての情報配信を実施する。 ○塾主催説明会等の生徒募集行事を通じて個別相談会参加の増加を図り、さらに受験生・保護者が求める情報を提供できるような努める。	○計画通りにポスター・パンフレットが作成できたか。 ○計画通りに「本庄第一通信」が発行できたか。 ○HPの質の向上が図れたか。 ○HPの情報が適宜更新され、それに伴い閲覧者が増えたか。 ○オープンスクール参加目標人数1000人を達成できたか。 ○学校説明会参加目標人数650組を達成できたか。 ○生徒募集イベントへの参加者が受験後入学につながったか。 ○BLENDを使用して受験生に情報配信できたか。 ○LINEやInstagram等のSNSを利用して部活動や生徒の様子を提供できたか。 ○生徒募集行事を通じて個別相談会の参加者を増やさせ、受験生や保護者が求める情報を提供できたか。	○昨年度より、本庄第一通信(発行全回)の10回を広報誌「みらチカ」の利用に切り替えた。本校の活躍が地元の情報誌に掲載されることは、本校の広報活動に一つながり良い選択であったと考えられる。 ○HPリニューアルするとともに、新着情報(学校行事や部活動結果など)を高い頻度で更新できるように努めた。 ○学校説明会の申込数は、昨年比132.2%(914名)の参加であり、出願者数につながったと考えられる。入学予定者数も昨年を上回る見込みとなっているが、募集定員には届いていない。また、個別相談会の申込数は、昨年比85.4%であり、受験生による個別相談会の問い合わせの増加が必要である。 ○今年度より活用したBLENDにより、入試情報や募集イベントの告知を受験生にメール配信することができた。 ○BLENDに加えSNSも利用し、各部活動の様子や募集イベント・学校行事などの発信の頻度を高めた。	○今年度と同様に本庄第一通信は紙媒体で配布するが、デジタルデータとしても閲覧できるよう準備し、HPなどに掲載してさらに受験生や保護者に有意義な情報を発信していく。 ○HPやSNSによって学校の情報発信の機会を増やせるようにし、日々の作成・更新を積極的に取り組む。 ○S類型説明会を通して学業への取り組み方法を伝えたり、学校説明会で高校全体の説明内容を充実させ、生徒が明るく元気で楽しいと感じる学校生活を積極的に伝える。 ○BLENDやSNSを活用して募集イベントを告知し、参加申込の増加を図る。 ○出願に関しては、受験生・保護者にとってよりわかりやすい入り口にするなど、出願時における入力間違いの減少に取り組む。 ○高校(全日制・通信制)における生徒募集活動全体の抜本的な見直しを行う。		

2025年度学校自己評価シート(本庄第一高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	学園理念「響生」 ・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。 ・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。 教育方針 ・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心もち、学力・技術の向上に努める。 ・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる。 ・スクールミッションである「多様な夢や希望を実現するために挑戦する強い心を持ち、努力を継続し、また、周囲の人々とお互いに影響を受け、与え合いながら、逞しく、前向きに将来を切り拓くことができる人物を育成する学校」としての社会的責任を果たす。
本年度重点目標	1 各類型コースの特色づくり 2 英語を軸とした学力の向上 魅力ある授業づくり 3 秩序ある学校の雰囲気づくり 4 開かれた学校づくり(学校開放・地域への貢献) 5 生徒募集・広報活動の充実(説明会・体験入学の充実) 入学者増

※番号欄は本年度重点目標の番号と対応させている。

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会を開催、また個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者(聴取者)	
学校関係者(法人 監事・評議員)	名
生徒	名
事務局	名

学校自己評価				年度評価(2026年3月31日現在)		学校関係者評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	***	実施日2026年5月末日
							次年度への課題と改善策
1・2	OS類型:英語外部検定上位級合格者を増やす。 難関大学の入試に対応できる学力の定着。文系のでこ入れ。 縦割りの連携を意識した各学年での取り組みと学力向上。 OA I 類型・文 I 型・理 I 型 英語外部検定資格取得者を増やす。 学習意欲・基礎学力向上と進路の実現。 OA II 類型・文 II 型 英語外部検定受検者を増やす。 定期試験の成績だけでなく、知識の蓄積を目標とした学習習慣の確立。 推薦を希望する生徒の基礎学力の担保。 ○通信制高校課程の運営を起動にのせる。	英語外部検定取得 ○英語外部検定取得・受験状況の更なる可視化。 ○S類型は放課後補習・個別指導・長期休業中補習の充実。 ○「スタディ・サブリ」等を活用し、学力向上に効果的な学習法の提供。 ○自主性を育み、主体的学びまで届かせる具体的な指導。 ○文 I・理 I は平日2回の希望者補習・長期休業中補習の実施。 ○就職希望者向け公務員試験対策講座・講演会の実施。 ○総合型選抜入試・推薦入試対応型講座や小論文模擬試験等の実施。 ○国立大学の総合型選抜入試や公募推薦なども含めた大学入試問題の研究。 ○部活動など、得意分野を活かした進路指導の強化。 ○教員の指導力や知識の向上のための研修会の充実および大学入試問題の研究。 ○キャリアガイダンス等の行事を充実させ、生徒が早期に進路目標設定、研究、準備が始められるよう計画する。 ○新設された通信制課程卒業率100%を目指す。	○国立大学の合格者を10名(2022年実績)以上出せたか。 ○GMARCHの合格者を20名以上、日東駒専の合格者を30名以上出せたか。 ○総合型選抜・学校推薦型選抜での合格率が向上したか。 ○連携校への受験者数・合格者数ともに20名以上出せたか。 ○担任を主とした小論文・面接指導の展開が図れたか。 ○が展開されたか。 ○通信制課程の卒業率が100%であったか。 ○英語力向上が図れたか。				
3	生徒指導に求められる役割は時代によって変化してきており、生徒の抱える問題やニーズが多様化し、複雑さと困難さは年々増してきている。近年の生徒指導は内面的な部分で問題を抱える生徒や生徒間で起こるSNSによる問題が多い。友人関係の構築も未熟で、他人との関係性を築いていく力が弱いため、いじめや不登校などに発展することもある。また、SNSの発展に伴い、学校生活の中で自分と異なる価値観の人との関係性を築いていく体験の乏しさが、問題の一因となっていると考えられる。人間関係づくりにおける課題は、これからの生徒指導は、重要な問題事項になっているため、丁寧な指導が必要である。また、年々、校則の内容を把握していない生徒が増えているので、教員と生徒で校則確認、見直しを毎年行えるようし、教員間で指導に差が出ないよう注意する必要がある。 ○未然防止のための生徒指導 ○社会情勢に合わせた生徒指導 ○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携した生徒指導 ○いじめ問題の防止と発生時の早期解決 ○交通事故減少	生活指導 ○生徒の小さな変化を見逃さないよう、生徒とのコミュニケーションを大切にし、教員間の連絡を密にする。 ○朝の校門指導、生徒指導係による朝指導を実施する。 ○警察官による防犯講話を実施する。 ○情報セキュリティ講座を実施する。 ○厳しさと丁寧さを兼ね備えた生徒指導に努める。 ○教員間で温度差のない、生徒指導に努める。 ○本校の生徒指導方針について保護者に理解していただく。 ○生徒相談や体罰問題に関する教員の研修の充実。 ○教員と生徒で校則の確認、見直しを行う。	○頭髪・服装の乱れにより、指導を受ける生徒が減少したか。 ○安全にインターネットやSNSを利用し、マナーやモラルを守ることができたか。 ○問題行動、インターネットおよびSNSトラブルなど未然に防ぐことができたか。 ○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携し、生徒のサポートが図れたか。 ○いじめ基本方針に基づいた防止策が図れたか。早期発見、早期解決が図れたか。 ○公共の場でのマナーは守れたか。 ○自転車安全運転の意識が向上し、交通事故が減少したか。 ○生徒指導における保護者との連携が図れたか。 ○生徒相談や体罰問題に関して、教員の意識が高まり成果が上がったか。 ○先生間で共通意識を持ち、温度差のない生徒指導ができたか。 ○教員と生徒で校則の確認ができたか。				
2	○英語力向上を強く意識した指導。 ○学習意欲の低い生徒への対応。 ○「探究の時間」を充実させる。 ○家庭学習が疎かになっている生徒への対応。 ○ICT・DXを活用した教科指導の推進 ○キャリア教育の目標を意識した取組み。 ○教員自身の指導力向上にむけた、各種研修の参加。	授業改善の取組(生徒の主体的な取組みを促す) ○授業・課題等でタブレット端末の活用、動画や資料の日常的な配信。 ○ICT・DXを駆使した、同時双方向型指導の計画。 ○外部団体主催の各種スキルアップ講座等へ積極的参加。 ○授業力向上に資する、授業アンケート実施と活用。 ○アクティブラーニングをテーマにした授業の公開。 ○キャリア教育を意識した教科指導の研究。 ○新指導要領に則った「新教育システム」の計画(新しい普通科・文理横断型探究)	○授業や課題で、タブレット端末・動画・資料の提示を日常的に配信できたか。 ○ICT・DXを駆使し、双方向型指導が行えたか。 ○外部団体主催の各種スキルアップ講座へ積極的に参加できたか。 ○授業力向上に資する、授業アンケートの実施とその活用が行えたか。 ○アクティブラーニングをテーマとした公開授業を行ったか。 ○キャリア教育を意識した教科指導の研究が行えたか。 ○新指導要領に則った「新教育システム」の計画が進んだか。 特に関「新しい普通科の設置」・「文理横断型探究の導入」				
4	○地域保護者および小中学生に対して本校生徒の活動、成果、教育実践に関する情報提供の推進。 ○地域の要請によるイベントへの参加、施設の貸し出し対応。 ○学校自己評価シートの公開による開かれた学校づくりの具体的な取組みの推進。 ○スクールライフアンケートの結果による生徒会との連携。 ○学校見学会の内容の充実。 ○様々な分野における地域との連携。 ○PTA活動の充実。	開かれた学校づくり ○地元社会体育団体への施設開放。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 ○スクールライフアンケートの実施。 ○学校の取り組みに対する保護者への理解を促し、要望等を取り入れていく。 ○紙媒体とデジタルデータを利用し、より多くの人々に情報を公開する。 ○PTA主催のイベントや研修会の開催の実施。 ○高大連携校との繋がりを大切にし、大学との連携事業を推進する。 ○スクールのミッション、スクールポリシーを掲げ、それに基づいた教育活動を行い、学校の特徴を伝えていく。 ○卒業生および卒業生保護者に匿名での学校生活アンケートを行い、学校生活の質を向上させる。	○地元社会体育団体への施設開放をさらに進めていく。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加を促していく。 ○スクールライフアンケートを実施する。 ○学校の取り組みに対する保護者への理解を促し、要望等を取り入れていく。 ○PTA活動の内容を検討し、保護者の負担にならない充実した活動を進めていく。 ○紙媒体とデジタルデータを利用し、より多くの人々に情報を公開する。 ○HPのリニューアルを行う。 ○生徒と教員が一丸となって情報を発信できる広報活動の活性化を進めていく。 ○充実した学校行事になるよう時期、内容の検討をしていく。 ○高大連携事業を推進していく。 ○スクールミッション、スクールポリシーに基づいた教育活動を宣伝していく。 ○卒業生、卒業生保護者に匿名の学校生活アンケートを実施し、本音を聞くことにより、取り組み改善に活かす。				
5	○学校の取り組みや生徒の諸活動を保護者・地域に対して積極的に情報提供する。 ○オープンスクール・学校説明会・個別相談会等の参加者増加へ向けた生徒募集行事を強化する。 ○受験生・入学者の増加に向けた取り組みを行う。 ○HPの質の向上と受験生・保護者が求める情報を発信する。 ○LINEやInstagramなどのSNSを有効利用した効果的な情報を提供する。	生徒募集・広報活動 ○年2回の「本庄第一通信」の発行および「みらテカ」の配布する。 ○定期試験期間による中学校訪問や塾訪問を実施する。 ○オープンスクール、体験入部会の実施する。 ○学校説明会、S類型説明会、個別相談会の実施する。 ○校外での説明会の実施や平日における学校見学希望者の対応を行い、普段の本校の取り組みや生徒の様子を説明する。 ○部活動が警察署、小学校、保育園、商工会の催事へ参加協力する。 ○HPの質の向上を図るとともに適宜更新し、中学生や保護者に対して有意義な情報を発信する。 ○部活動や生徒会活動などをはじめとした生徒の様子を様々なSNSなどを活用し、幅広く情報を発信する。 ○BLENDを利用しての入試情報や募集イベントの情報配信をする。 ○オープンスクール・体験入部会・各説明会などの募集イベントにおいて、受験生や保護者が求める情報を提供できるよう努める。さらに、これらの参加者を個別相談会の申し込みへつなげる。	○計画通りに「本庄第一通信」が発行できたか。 ○中学校訪問や塾訪問を通して募集イベントへの参加や出願の増加につなげることができたか。 ○HPの情報が適宜更新され閲覧者数が増加したか。 ○オープンスクール参加者を受験や入学につなげることができたか。 ○学校説明会参加者を受験や入学につなげることができたか。 ○S類型説明会参加者を受験や入学につなげることができたか。 ○個別相談会参加者を受験や入学につなげることができたか。 ○BLENDを使用して受験生や保護者に情報の配信ができたか。 ○募集イベントや学校行事を通じて個別相談会の参加者の増加につなげることができたか。 ○LINEやInstagramなどのSNSを利用して学校行事や生徒の様子を情報提供に努めることができたか。				

学校関係者評価
実施日2026年5月末日
学校関係者からの意見・要望・評価等